

電子複写不可

沖繩作戰概史
才三景

防衛廳作戦史部編輯



史料 証 歴 票

一、本史(實)料は昭和二十年八月大東亞戰爭終了後、第一復員省(局)史実調査部(資料整理部)において作成又は収集したものであるが、占領米軍の没収を避けるため、部長服部卓四郎大佐が自宅に搬出隠匿し、次いで岡大佐主宰の史実研究所が保管していたものである。

二、昭和三十五年四月三十日服部大佐死亡に伴い、遺族の申出により同年六月戦史室に移管された。

昭和三十五年六月二十二日

本証歴票記註者 一等望佐(元陸軍中佐) 原 四 郎

防衛研究所戦史室調査官

本史料保管に關 防衛庁事務官 西 浦 達

する全般責任者 防衛研究所戦史室長

系本

正史資料

沖繩作戰概史

第三案

15部

作110C

は
366

目次

- 第一 作戰準備及指揮系統ノ變更
- 第二 作戰思想ニ就テ
- 第三 作戰開始前ノ情勢ニ就テ
- 第四 作戰計畫ノ概要
- 第五 兵團ノ素質
- 第六 築城訓練
- 第七 作戰經過
 - 一 空襲開始ヨリ本島上陸迄
 - 二 敵ノ本島上陸ヨリ主陣地前方ノ作戰
 - 三 第一回總攻撃中止ノ経緯
 - 四 第二回總攻撃中止ノ経緯

23 20 18 14 14 10 8 4 3 2 1 頁
 10 7 5 5 4 4
 ← 2 2 1

- 五 第三回 攻勢ノ經緯
- 六 敵ノ攻勢發起
- 七 敵ノ第一回總攻勢ノ頓挫ヨリ五月四日攻勢前迄ノ軍ノ統帥
- 八 軍ノ航空戦力ニ期待スル思想ノ變遷
- 九 最後ノ攻勢開始ト中止ニ關スル經緯
- 十 首里最後ノ攻防ト南方地區戰線轉移ノ經緯
- 十一 島尻地區ノ軍ノ終末戰

48 43 38 36 25 25
20 18 16 15 14

附 伊江島及國頭方面ノ戰鬪

- 附圖第一 沖繩作戰經過要圖 (1/4 | 1/4)
- 附圖第二 全右 (國頭地區) (1/4 | 1/4)
- 附圖第三 全右 (1/4 | 17/5)
- 附圖第四 五月四日戰線經過要圖 (1/5 | 1/6)
- 附圖第五 全右

第一 作戰準備及指揮系統ノ變更

- 一 一九四四年三月 米軍マリアナ攻略前大本營ニ於テハ將來沖繩諸島ニ作戰波及ノ時アルヲ考慮シ十號作戰準備ヲ下令セリ
- 二 十號作戰ノ準備ハ南西諸島及臺灣東岸ノ航空基地ヲ強化シ以テ東面航空作戰ヲ九州基地ト相俟ツテ強化セントスルニ在リ 即チ徳之島・沖繩本島・伊江島宮古石垣各島及宜蘭臺東等ノ航空基地ヲ擴張又ハ新設シ之ヲ確保スルニ足ルベキ地上兵力ヲ配置セントスルニ在リ
- 三 32Aハ如上ノ目的達成ノ爲三月末西部軍隷下ニ編成セラレル(防衛總司令管轄下)
- 四 西部軍ハ南西諸島ノ作戰準備ニ努カシアリシ所同年

九月ニ到ルヤ南西諸島方面航空作戦ハ臺灣上海地區、
一環ニ於テ實施セラルベシトノ大本營ノ見解ニ基キ
突如第^{32A}軍ヲ臺灣軍ノ隷下ニ變更セラル

第三 作戦思想ニ就テ

一 沖繩全般作戦ニ關シテハ大本營ハ作戦ニ準備
決戦思想ヲ包懷シアリタルモ爾後全般ノ作戦推移
力新ニ航空ノ船舶就中離島作戦ノ特性ニ鑑ミ一九四五年
イニ於テハ敵ニ大ダメージヲ強要スル戰略持久ノ思
想ニ轉移セリ

ニ 地上配備ノ思想ニ就テ
地上配備ハ十號作戦準備ニヨリ航空基地ヲ飽
ク迄確保シ己ムヲ得ルニ敵ノ基地使用妨碍ヲ圖ル

ニ在リ、然ルニ^{32A}作戦參謀ハ各諸島ノ兵力ヲ沖繩
本島ニ集約シ^{32A}作戦思想ヲ抱懷シテ

一九四四年八月頃上京シテ之ヲ説明セリ防衛總司令部ニ於テ
ハ近代戦ニ於ケル航空基地ノ重要性ヲ説得シ該思想
ノ取ルベカラサルヲ指導セルモ尚航空基地確保ノ思
想薄ク動モスレバ基地ヲ放棄セントスル傾向アリ
屢々^{32A}ヨリ指導ヲラル、所アリタルモ^{32A}修正スル所
ナカリキ、特ニ^{9D}ヲ臺灣ニ抽出セル後ニ於テ然リ

第三 作戦開始前ノ情勢ニ就テ

比島戰ノ戦勢漸次不利トナルヤ^{32A}ニ於テハ或ハ
一九四五年一月中ニ敵ノ來冠アルヲ豫想シ作戦準備ニ努力
ス、即チ築城ノ進捗ハ平素ノ二〜三倍程度ニ^{32A}ナリ

大本營ニ於テハ比島作戰ノ推移ニ伴ヒ敵ノ來寇ハ四月
 月上旬以降ト判斷シテ天號作戰計畫ヲ企劃セリ
 三月中旬米機動部隊ハ九州四國方面ヲ空襲セルモ 32A
 其ニ於テハ之ヲ以テ沖繩本島上陸直前ノ準備空襲ト
 判斷シアラス。即チ大本營ヨリノ情報放送ハ單ニ中南
 部太平洋方面ノ船團ノ動キ活潑ナリト言フニ過ぎズ
 且九州四國ノ空襲期間ヨリシテ機動部隊ハ本格的に上
 陸ノ爲ニハ南~~上~~ウ~~ル~~シ~~ー~~方面ニ歸投補給ヲ要スベシ
 判斷セルヲ以テナリ。

筈 作戰計畫ノ概要

一 全般ノ兵力部署
 沖繩本島ニハ 8D 7 德之島 88s 宮古島 28D 石垣島 1B 南大東

島步兵一聯隊ヲ配置シ宮古石垣島ハ先島集團長統

轄シ又德之島守備隊ヨリ沖永良部島ニ大隊與論島ニ
 山隊鬼界島ニ一部ヲ派遣シアリタリ

ニ本島ノ兵力配置

(1) 首里周邊ニ 62D 知念半島ニ 44B 喜阿武方面ニ 24D 配置ス
 ルニ三點防禦ノ思想ニシテ山~~嶺~~附近ハ海軍守備隊約
 八~~百~~ヲ以テ同方面ノ防禦ヲ担任セシム

(2) 本島北部方面ニハ國頭支隊(二大隊)ヲ配置シ地形ヲ利用
 シ遊撃戰ヲ實施セシム。國頭支隊ノ内一大隊ハ伊江島
 守備ノ爲派遣セラレタリ。

(3) 北中飛行場方面確保要領
 62D ヨリ賀谷大隊ヲ中飛行場方面ニ又臨時ノ軍隊區分
 ヲ以テ航空壕區諸部隊ヲ合~~併~~特混第一聯隊ヲ航空地

北飛行場方面ヲ守備セシ
 A. 9D 以前ニ於テハ 24 全カヲ以テ北中飛行場方面
 ノ防禦ニ當リシガ 5 留年未 9D 抽込後ニ於テハ本島南
 部地區ノ防禦力薄弱トナリシ爲軍ハ 24ヲ南部地區ニ
 轉用シ、上記ノ如ク補備的配備ヲ以テ甘ンズルニ至レリ
 三航空作戦準備
 (1) 十號作戦準備下令セラル、ヤ、32A 次ノ如ク飛行場ヲ擴
 張新設シ同方面ノ航空作戦ニ遺憾ナキヲ期セリ

- 德之島 一個
- 伊江島 二個
- 沖繩本島 北中南(未完成)
- 首里祕匿飛行場(未完成)
- 東飛行場 ()

海軍ハ小線飛行場ヲ擴張スルト共ニ係滿秘
 匿飛行場ヲ設定セリ

(2) 燃彈關係

約 1FD X 月分ヲ各飛行場ニ分類配置ス

(3) 航空地區部隊ノ配置

- 德之島 飛行場中隊、航空通信一部
- 伊江島 飛行場大隊、航空通信一部
- 本島 航空地區司令部
- 飛行場大隊 ||
- 航空分隊
- 獨立整備隊 |
- 飛行場設定隊 |
- 航空通信部

西本島

十號作戰準備下令後種秫ハ臺灣ヨリ移送シ辛ジテ全
兵額ニ應ズル昭和二十年九月頃迄ヲ保有セリ。
彈藥約一會戰分其ノ他軍需品ハ主トシテ九州方面ヨ
リ集積セラレタリ。

五通 信

島内各兵團トノ有無線連絡ハ勿論各島間及九州臺灣
トノ航空系地上系通信ハ殆シド完備シアリ

第五 兵團ノ素質

一 軍司令部

- (1) 軍司令部編成定結後約一年ニシテ部内諸業務漸ク圓滑トナレリ。
- (2) 軍司令官牛島滿中將ハ昭和十九年 月第二代司令官

トシテ兼任同中將ハ部内ニ於テモ人格者トシテ知ラ
レ支那ニ於テ旅團長トシテ勇名赫々如何ナル難局ニ
際シテモ悠々迫ラザル概アリ

- (3) 軍參謀長長勇中將ハ豪放ニシテ曾テ張鼓峯事ニ勇戰シ南方軍參謀副長トシテ政務ニ關係シ其ノ後滿洲ニ於テ對戰車戰^{研究}ニ努力セラレタリ
- 昭和十九年 月沖繩ニ着任セリ

(4) 參謀部

高級參謀ハ陸軍大學校兵學教官トシテ長ク勤務シ紳
士的人物ナリ。參謀部内ノ團結ハ必ズシモ良好ナラズ

二 各兵團

- (1) 620 八編制上次等師團ニ屬スルモ支那ニ於テ討伐作戰ニ從ヒ實戰ノ訓練ヲ經アリ

（三）各兵團到野島各兵團

(2) 24D 八關東軍ニ於テ東部國境方面防衛ニ任ジアリシモノニシテ素質最モ良好ナルモ兵團トシテ實戰ノ訓練ヲ經アラズ

(3) 獨立混成第四十四旅團ノ素質ハ62Dト概テ同等ナリ

(4) 軍砲兵隊司令部並各砲兵聯隊共素質能力最モ良好ナリ

(5) 其ノ他ノ諸部隊ハ素質必ズシモ良好ナラズ

第六 築城訓練

一諸離島作戰ノ教練ニ基キ沖繩ニ於テハ徹底的ニ築城作業ヲ實施セリ。特ニ洞窟陣地ハ多數ノ自然洞窟ト相俟テ全部隊殆ンド完成シ、敵艦砲射撃ニ對シテハ完璧ヲ期セリ。之レ一九四五年一月頃天竺上陸ノ算多キノ判斷ニ基キ全部隊大イニ努カセル結果ナリ

キテケル築城進捗率ハ平素ノキヲ幸々倍ニ達セリ。然レドモ築城ノ主体ハ掩護築城タル洞窟陣地ニシテ火カヲ發揮スベキ野戰陣地ニ至リテハ尚不十分ナルヲ免レザリキ。即チ洞窟陣地自體ヲ其戰料ニ編成設備スルト共ニ之ニ附随スル他表面陣地ヲ構築スルコト緊要ナリシナリ

火力の揮ふる

二軍ノ防禦陣地構成計畫ハ殆ンドナク各兵團ニ單ニ防衛地域ヲ配當シ各兵團各個ニ企圖スル築城ヲ實施セリ。其結果ハ作戰開始後兵團間隔ノ弱點ヲ暴露シ且兵團ノ機動ニ當リ難進ヲ極ムル一因トナレリ。又各兵團ハ主トシテ海岸正面ニ對シ陣地ヲ構成(62Dハ首里北方陸正面)シアリタル爲担任正面外、即チ陸正面背後ヨリスル攻撃ニ對シテハ獨立性兵團ノ連繫統一

性ヲ失ヒ柔軟性ナル戦術遂行上薄弱ハ免レザリキ

三訓練

部隊ノ改編兵團ノ抽出防禦思想ノ變更等ハ部隊ヲシテ陣地構築ニ專念ルルヲ得ザラシメ防禦戰ニ關スル訓練大、小部隊ノ機動訓練ノ餘枯少カリキ即チ襲撃戰闘準備キハ先ヅ一應努力セシモ歩砲ノ協同機動逆襲等ノ如キ動的作戰準備ハ十分ナラザリキ

註 防禦思想ノ變更

第九師團抽出前ニ於テハ第三十四師團ハ北中飛行場方面ニ第九師團餘座嶽ヲ中心トスル南部地區ノ配備ニ任ゼリ而シテ作戰構想ハ機動攻勢ノ思想ニシテ敵北中飛行場方面ニ上陸スルヤ軍主カヲ以テ北方ニ機動シ又南部地區ニ敵來冠スルヤ第三十四師團ヲ南方ニ機動セシメ敵ニ決戦ヲ強要セントスルニ在リ

然ルニ第九師團抽出セラルハヤ南部地區ノ兵力不足トナリタル爲第九師團ノ抽出ニ満足スル能ハズシテ陣地構築ニ努力セリ

備考

自己ノ努力

第七 作戰經過

一、空襲開始ヨリ本島上陸迄

三月二十三日、敵機九機、本島西岸に上陸す。同日、敵機九機、本島西岸に上陸す。同日、敵機九機、本島西岸に上陸す。

十

従来本島に於ける敵機は、本島西岸に上陸す。同日、敵機九機、本島西岸に上陸す。

敵機九機、本島西岸に上陸す。同日、敵機九機、本島西岸に上陸す。

敵機九機、本島西岸に上陸す。同日、敵機九機、本島西岸に上陸す。

敵機九機、本島西岸に上陸す。同日、敵機九機、本島西岸に上陸す。

敵機九機、本島西岸に上陸す。同日、敵機九機、本島西岸に上陸す。

敵機九機、本島西岸に上陸す。同日、敵機九機、本島西岸に上陸す。

敵機九機、本島西岸に上陸す。同日、敵機九機、本島西岸に上陸す。

敵機九機、本島西岸に上陸す。同日、敵機九機、本島西岸に上陸す。

敵機九機、本島西岸に上陸す。同日、敵機九機、本島西岸に上陸す。

敵機九機、本島西岸に上陸す。同日、敵機九機、本島西岸に上陸す。

敵機九機、本島西岸に上陸す。同日、敵機九機、本島西岸に上陸す。

敵機九機、本島西岸に上陸す。同日、敵機九機、本島西岸に上陸す。

敵機九機、本島西岸に上陸す。同日、敵機九機、本島西岸に上陸す。

敵機九機、本島西岸に上陸す。同日、敵機九機、本島西岸に上陸す。

敵ノ艦砲射撃開始セラルル、ニ及ヒ上陸ノ算大ナリトナリ

●「甲戦備」下令セラレタキ、第一方面軍ヲ即チ運ヨリ天ヲ作戦面ニ作戦準備
ヲ促スルヲ命ジ、
第一方面軍ニ於テハ戦備ヲ、甲（敵ノ上陸作戦ニ対スルモノ）、乙（空襲
及潜水艦ノ射撃ニ対スルモノ）、丙（敵ニ対シテ警戒スルヲ要スル場合）ノ三種ニ区
分シテアリタリ

分シテアリタリ

南方面海岸海面

15

2. 敵艦船群ハ當初那覇西方海面及湊川正面ニ現タリ

下戦主任参謀ハ敵上陸正面ヲ北中飛行場及湊川正面
ニシテ攻撃シ、
第一方面軍ハ敵艦船群ノ位置スル所アリ（主）即チ湊川
地区方面ニ対シテ陣地交換一部北方面面、
第六十二師団ヨリ、
及軍機本部ヨリ以テ該正面ニ攻撃
ヲ命ジ、
而レテ敵ノ南北ニ正面上陸ノ先入感ハ最後迄脱却
スルコトヲ得ズレテ北方面ニ於ケル現実ノ戦況ニ対ス
ル處置遲延シ、第六十二師団戦力ノ過早破綻ヲ招キ且

俣野南面正面ニ牽制セラレツ、北方陸正面ノ作戦指導
不徹底ノ禍根ヲ為マリ

●慶良間列島ノ戦闘

第一方面軍ハ水上特攻五個戦隊ヲ慶良間（三戦隊）那覇海區（二
戦隊）湊川地區（二戦隊）ニ配置シ敵上陸正面ニ全カク統合
シテ攻撃スル如ク計画シテアリタリ

然ルニ敵ハ三月二十五日ロセシマ慶良間列島ニ対シ
船舶百隻ヲ以テ急襲上陸セリ

水上特攻戦隊ハ之ニ対シ攻撃スルノ途ナリ直チニ陸
上戦闘ニ移リ、
第一方面軍ハ海軍部ハ一部ハ山間ニ退避スルノ止
メナキニ至ル

●対シ軍ハ潜水艦ヲ以テ敵ノ上陸
ノ山間ニ退避スル一部ハ爾後比較的長ク捕獲され、無棟並列舟ニ
依リ連絡シアリタリ

●対シ軍ハ潜水艦ヲ以テ敵ノ上陸
ノ山間ニ退避スル一部ハ爾後比較的長ク捕獲され、無棟並列舟ニ
依リ連絡シアリタリ

度良間列島ハ船舶、泊地、船舶、修理、及我々航空特攻ニ対スル防衛

據奥トシテ米軍利用價值大ナリシモノ、如シ

口、軍ハ機才、兼揮、亦能、一、~~...~~、特攻戰隊ニ対シ

幕布ニ轉移ノ軍命令ヲ下令セシモ、実況、彼上、如ク一部

ノモノヲ、除キ、大部ノ、轉用ハ、不可能ナリキ

ハ、三十一日ニ到リ、愛伊勢島ニモ、部上陸セリ

ニ、三十一日ハ、神山島ニ対シ、舟艇百隻、米陸兩用

戰車一五ヲ以テ上陸直チニ、~~...~~、射撃ヲ開始セ

リ、~~...~~、野戰重砲ハ、一ニ門、高射砲若干

ヲ上陸セシメ、本島ニ対シ、擾乱射撃ヲ行ヒタリ、神山島

敵砲兵力ハ、大ナルモノニアラスト、雖モ其ノ射撃擾乱

効果ケカラズ、之ニ対シ、~~...~~、上陸進断以、又ハ十五加、尤以

テスル、対砲兵戰ヲ実施シ、之ヲ制圧セザルヘカラザル、直接

ノ痛痒ヲ感セリ

二、敵ノ本島上陸ヨリ、主陣地前方ノ作戦

2. 四月一日、九〇〇敵ハ、大型舟艇約一五〇隻、小型舟

艇約六〇隻ヲ以テ、嘉手納海岸ニ上陸ヲ開始ス、其ノ後

チ海面ニハ、戰艦、巡洋艦、級約一〇、駆逐艦、級以下約三〇上

陸ヲ支援シ、アリ、又、湊川正面ニ対シテ、舟艇約五〇ヲ游

弋セシメ、陽動セリ

註) 上陸状況(本文中、数字ト異ヒ、モ、追視、明、某、線、ノ、報告、ヲ、其、儘、記載、ス)

某一表 (口九〇〇—二二〇〇)

北谷 八〇

桑江 五〇

残波岬 四

BC 四七二〇

平野、比赤川不明

茅二渡(一三三)一四三

一三三頃一四三線ニ待機 乘江以北ニ上陸ヲ企圖

北谷ニハ四〇一五〇上陸 敵ハ野津北側ニ大山ノ

2. 1. 特設第一聯隊(北中飛行場方面航空世區諸部隊ヲ以テ三月

中旬臨時編成ス 東進軍地軍司令官青柳中佐)ハ予定計

通ニ基キ上陸部隊ニ対シ反撃セルモ編成直後ニシテノ

戦力極カテ劣弱暫クニシテ攻盡カラ失ビ爾後ニニ

高世附近ニ退避シ態勢整理ノ止ハナキニ至ルリ四月三日國勢

敵ノ進歩状況

一四〇〇 北谷一佐又川一中飛行場一北飛行場

刻 北谷一吳富士一屋良一伊良海一庄喜味

味

口 賀屋支隊ハ敵ノ進歩ニ伴ヒ之ニ接触ヲ保ナツ、

島後陣地ニ後退シ之ニ據ルモ其真面目ハ我々ノ掌握シテ

註 二月中旬台湾軍作戦主任參謀カ茅三十二軍團參謀ニシテ

軍司令官ノ北中飛行場内衝強化作意圖ヲ傳達セル際ハ重砲ヲ

以テスル飛行揚制圧ノ強化 賀屋支隊ヲ後退セシメテ

且特設聯隊ト共ニ死守スベキコトヲ以テモ事實飛行揚制圧六十五

加一門ニ過テス賀屋支隊ハ後退ス如ク之ヲ指導セリ

三 茅一團總攻撃中止ノ経緯

四月二日カ三三日頃敵ハ北谷一我軍陣地南ニ進歩

四月三日頃敵ハ北谷一我軍陣地南ニ進歩

敵ニ進歩スルニ先軍參謀長ハ敵戰勢ノ浮動ニ乘

敵艦砲射撃 爆薬威力ヲ制シツ、敵ヲ攻盡スルノ

我艦隊ヲ攻ニ依リ相当ノ成果ヲ収メアリ

ト雖モ依然ガハ艦砲射撃、爆雷ヲ受ケツ、アルヲ以テ
大規模ナル滲透前進ニ依リ前地一帯ヲ彼我混合ノ紛
戦状態ニ導キ敵ヲシテ艦隊爆雷ノ余地無カラシメ局
部的ニ近接戦斗ニ依リ敵ヲ撃滅セントスルニ在リ
四月三日日本攻勢案ニ関シ軍参謀長ハ各参謀ヲ集メ研
究審議ス

2. 幕僚會議ノ模様

本島作戰ニ於テ各戦時兵団ヲ三点基本配置ニ配備セ
ルニ関シ根本的意見ニ左ノ如ク差異アリ
即チ軍参謀長ハ三点基本配置六敵ノ上陸正面不明ナ
ルカ故ニ然ルモノニシテ一度敵ノ進發方向明ラカト

本攻勢作戦計画要領次如シ

(一) 方針

八日夜攻勢ヲ開始シ前在ノ敵ヲ撃滅シテ、北陸行場回界制

高地帯ニ進出シ敵ヲ撃滅ス

(二) 部署ノ大要

1. 20ヲ第一線24ヲ第二線南島ヲ第三線トス

60島嶼東面ノ線ニ進出後24ヲ其ノ石壁ニ投入ス

砲臺ヲ掩護ス

2. 24攻勢時砲力ヲ用ズニテチク敵ヲ滲透致法ニ依リ

註一敵ハ遂ニ淺川ニ上陸ス我攻勢モ發動ス本統帥ハ軍統帥

即チ我航空機ヲ攻ニ依リ相当ノ成果ヲ収メアリタリ
 ト雖モ依然ガル艦砲射撃、爆雷ヲ受ケツ、アルヲ以テ
 大規模ナル渗透前進ニ依リ前地一帯ヲ彼我混合ノ紛
 戦状態ニ導キ敵ヲシテ艦砲射撃ノ余地無カラシメ局
 部的ニ近接戦斗ニ依リ敵ヲ撃滅セントスルニ在リ
 四月三日日本攻勢案ニ関シ軍参謀長ハ各参謀ヲ集メ研
 究審議ス

2. 幕僚會議ノ模様

本島作戰ニ於テ各戦時兵團ヲ三貞基本配置ニ配備セ
 ルニ関シ根本的意見ニ左ノ如ク差異アリ
 即チ軍参謀長ハ三貞基本配置ニ敵ノ上陸正面不明ナ
 ルカ故ニ然ルモノニシテ一度敵ノ進發方向明ラカト

ルヤ我艦ノ兵カラ集中シ攻勢ニ依リ任務ヲ解決ス
 シトオス意見ナリ
 作戰主任参謀(高敏参謀)ハ各兵團戦力ヲ縦深ニ發揮セ
 メ各兵團ノ持久時日ノ總和ニ依リ(特)久任務ヲ解決
 ントスル意見ナリ。幕僚會議ニ於テ右両意見ハ互
 譲ヲス他ノ幕僚又全員参謀長ヲ支持スル状況ナリ
 シノミナラス参謀長ノ信念牢固タルモノアリ
 四月四日ニ到リ右攻勢案ハ軍司令官ノ裁決スル所
 トナリ夕刻各兵團長ニ集合ヲ命シ内示スル所アリ
 然レトモ四日夜約五〇隻ノ船団突如南方海域ニ現
 出遊ギシ俣川正面ニ上陸スルノ算大ナル旨ノ航空部
 隊ノ通報アリシ爲ニ遂ニ攻勢ヲ中止スルニ至レリ
 註一敵ハ遂ニ俣川上陸ス我攻勢モ發動ス。本統帥ハ軍統帥

4. 四月十日、自台軍艦、先頭隊あり、我艦隊の防衛隊にあり

諸の、間、上陸防衛隊、我艦隊の防衛隊にあり、我艦隊の防衛隊にあり

5. 四月十日、自台軍艦、先頭隊あり、我艦隊の防衛隊にあり

6. 四月十日、自台軍艦、先頭隊あり、我艦隊の防衛隊にあり

7. 四月十日、自台軍艦、先頭隊あり、我艦隊の防衛隊にあり

8. 四月十日、自台軍艦、先頭隊あり、我艦隊の防衛隊にあり

9. 四月十日、自台軍艦、先頭隊あり、我艦隊の防衛隊にあり

10. 四月十日、自台軍艦、先頭隊あり、我艦隊の防衛隊にあり

11. 四月十日、自台軍艦、先頭隊あり、我艦隊の防衛隊にあり

12. 四月十日、自台軍艦、先頭隊あり、我艦隊の防衛隊にあり

13. 四月十日、自台軍艦、先頭隊あり、我艦隊の防衛隊にあり

14. 四月十日、自台軍艦、先頭隊あり、我艦隊の防衛隊にあり

15. 四月十日、自台軍艦、先頭隊あり、我艦隊の防衛隊にあり

16. 四月十日、自台軍艦、先頭隊あり、我艦隊の防衛隊にあり

17. 四月十日、自台軍艦、先頭隊あり、我艦隊の防衛隊にあり

18. 四月十日、自台軍艦、先頭隊あり、我艦隊の防衛隊にあり

19. 四月十日、自台軍艦、先頭隊あり、我艦隊の防衛隊にあり

20. 四月十日、自台軍艦、先頭隊あり、我艦隊の防衛隊にあり

21. 四月十日、自台軍艦、先頭隊あり、我艦隊の防衛隊にあり

22. 四月十日、自台軍艦、先頭隊あり、我艦隊の防衛隊にあり

23. 四月十日、自台軍艦、先頭隊あり、我艦隊の防衛隊にあり

24. 四月十日、自台軍艦、先頭隊あり、我艦隊の防衛隊にあり

25. 四月十日、自台軍艦、先頭隊あり、我艦隊の防衛隊にあり

26. 四月十日、自台軍艦、先頭隊あり、我艦隊の防衛隊にあり

27. 四月十日、自台軍艦、先頭隊あり、我艦隊の防衛隊にあり

28. 四月十日、自台軍艦、先頭隊あり、我艦隊の防衛隊にあり

29. 四月十日、自台軍艦、先頭隊あり、我艦隊の防衛隊にあり

30. 四月十日、自台軍艦、先頭隊あり、我艦隊の防衛隊にあり

31. 四月十日、自台軍艦、先頭隊あり、我艦隊の防衛隊にあり

32. 四月十日、自台軍艦、先頭隊あり、我艦隊の防衛隊にあり

33. 四月十日、自台軍艦、先頭隊あり、我艦隊の防衛隊にあり

34. 四月十日、自台軍艦、先頭隊あり、我艦隊の防衛隊にあり

35. 四月十日、自台軍艦、先頭隊あり、我艦隊の防衛隊にあり

36. 四月十日、自台軍艦、先頭隊あり、我艦隊の防衛隊にあり

37. 四月十日、自台軍艦、先頭隊あり、我艦隊の防衛隊にあり

38. 四月十日、自台軍艦、先頭隊あり、我艦隊の防衛隊にあり

39. 四月十日、自台軍艦、先頭隊あり、我艦隊の防衛隊にあり

40. 四月十日、自台軍艦、先頭隊あり、我艦隊の防衛隊にあり

41. 四月十日、自台軍艦、先頭隊あり、我艦隊の防衛隊にあり

42. 四月十日、自台軍艦、先頭隊あり、我艦隊の防衛隊にあり

43. 四月十日、自台軍艦、先頭隊あり、我艦隊の防衛隊にあり

五 第三回攻撃ノ経緯

1. 軍司令部ニ於テハ八日午後ニ至リ兩師團ヲ並列シ夫、有力ナル部隊ヲ以テスル攻勢ニ關スル是非及方法等ニ

關シ更ニ研究ヲ促進スルト共ニ同夜一部ヲ以テ斬入夜襲ヲ實施セルモ大ナル成果ヲ收ムルニ至ラザリキ

2. 當時我陸海軍航空部隊ノ攻撃威力甚大ニシテ航空母艦戰艦巡洋艦等ニ對スル撃沈破戦果著ク擧リ本島周

邊ノ艦船中戦巡級一ニ隻内外驅逐艦級一ハヲ數フ

3. 四月十日頃ニ至ルヤ敵艦艇群ノ勢力漸減セラレタルモノ、如ク我軍主力ノ我視界外ニ去ルモノ多ク來襲

救救亦漸減ス

聯合艦隊モ亦壯烈ナル電命ニ下達ス

(一) 諸情況ヲ綜合スルニ敵ハ動搖ノ兆アリテ戰機將ニ

七分三分ノ兼ネ合ヒニ在リ

①聯合艦隊ハ此ノ機ニ乘ジ指揮下一切ノ航空戰力ヲ投入總攻撃ヲ以テ飽ク迄天號作戰ヲ完遂セントス

4. 津堅島ニ對シ〇八三〇舟艇約八〇隻(兵力ニ大隊ト判斷)ノ敵兵上陸ス

5. 我主陣地正面ノ敵ハ第一線約五〇〇〇戰車約一〇〇〇ニシテ主陣地前線爭奪ノ紛戰ヲ惹起シアリ

6. 右ノ諸情勢ニ應ジ軍ハ再ビ攻勢ヲ實施スルノ要ヲ感ゼリ然レドモ敵ノ縱深ニ亘ル戰勢ノ浮動ハ既ニ止ミ

主戰力ハ我カ陣前近クニ集中シアルニ鑑ミ先ツ主戰力集中地帯ノ敵ヲ掃滅スルヲ得策トシ十二日夕ヨリ大規模ナル陣前出撃ヲ為スニ決ス(十日決定)

17. 十一日軍ハ和守度上五五高地一四一高地我如古、

嘉波北側地帯ノ線ヲ保持シアリ

嘉波北側地帯ノ攻勢ノ結果ハ兩師團(第二十四師團ハ步兵隊)ノ右翼ニ加入セシム

第三十二師團ヲ第六十二師團ノ右翼ニ加入セシムノ攻勢兵力十分ナラズ攻勢ノ意志モ亦堅確ヲ缺キ大ナル成果ヲ收ムルニ至ラザリキ

註 本作戰ノ統帥上ノ實相ニ就テ

1. 作戰主任參謀ハ軍命令ヲ忠實強力ニ促進スルコト

ナク寧口兩師團ノ行動ヲ拘制シ自己ノ專守防禦的思想

ニ沿フ如キ指針ヲ實施セリ

即チ各兵團參謀ニ對シ

攻勢失敗ハ既ニ明瞭ナルヲ以テ大ナル兵力ヲ用フルコトナク若干ノ新入隊ヲ派スルヲ以テ足レリトスト

本件ハ軍情報主任參謀ノ聞知スル所トナリ又第六十二

師團參謀ヨリ直接宜參謀長ニ報告セラレクル所ナリ
 本攻勢ハ右ノミナラズ再度ニ亘リ攻撃中止ノ命令
 ヲ下達セシ急軍ノ統帥力ニ對シ各兵團危惧セルモノアリ
 シコト亦一因ナリ
 3. 本戦闘ノ結果軍統帥ノ紊亂ヲ暴露セルノミナラズ
 各師團參謀ノ軍作戰主任ニ對スル信頼全ク無ク且軍參
 謀部ノ空氣暗澹タルモノアリタルハ事實ナリ
 六 敵ノ攻勢發起

1. 我方陣前出撃後彼我共ニ局部的戦闘ノ外著變アリ
 然レドモ前掲敵次ノ不徹底ナル出撃↑↑↑ノ消耗ハ甚大ニテ
 第六十二師團ヲシテ戰力ヲ過早ニ消滅セ
 シノ運次戰線ヲ集約セシメサルベカラザルニ至レリ
 蓋シ右戰線ノ集約ハ軍ニ兵力上ノ問題ニノミナラズ

砲爆撃ニ暴露シ 保持ニ相當ノ犠牲ヲ拂

之ヲ奪回スルハ其ノ戰術上特質トシテ敵ヲ困難ニハアラザ
 リシモ新陣地ニ依リ敵ヲ阻止スルニ勝レリト
 シタルニ依レリ

2. 十八日敵ハ依然攻撃準備ナシモノ、如ク更ニ知念半
 島方面ニ一部ヲ陽動セシメ上陸ノ徵候ヲ示セリ
 3. 敵ハ我主陣地ニ接觸ヲ開始シテヨリ十數日間詳密ニ
 撃準備ヲ行ヒ十九日ニ至リハ重兵ヲ西海岸道ニ保持
 シ攻撃ヲ開始ス 猛烈ナル砲銃爆撃ハ我ガ行動ヲ
 制肘スル所大ニシテ逐次陣地ヲ蚕食スルニ至リタル
 第六十二師團及歩兵第十ニ聯隊ノ防禦戰闘ハ甚大ニ

（防衛戦闘）

大ノ損傷ヲ與ヘニ十三日敵ノ攻勢ハ頓挫セリ其後況又如シ

四月十九日朝來漆川正面ニ猛烈ナル艦砲射撃爆發

ヲ開始シ沖合多數ノ艦船群破泊シ背面より陸ノ企圖ヲ呈

示ス。北方陸正面ニ於テハ陣内ニ侵入セシ戰車四十五

輛ヲ擱挫炎上セシムル。陸地線著變ナシ

四月二十日我陣地左翼方面ニ對スル敵ノ攻撃ハ遂次

進展シ夕刻ニ於ケル敵線ハ右砲台方面大ナル變化ナク

左翼方面ニ於テ伊祖山四高地漆川附近ニ進出セリ

四月二十一日一四一高地ニ我如五ノ多數ヲ確保シ敵進入

ノ都度之ヲ撃退ス。左翼方面ハ二十日夜夜襲ニヨリ伊

祖一四八高地線ニ進出セルモ全面的舊陣地ヲ奪回スル

ニ至ラズ

二 四月二十二日二十三日攻防戰ヲ續行セルモ二十三日ニ至リ

敵ノ攻撃ハ頓挫ス

七 敵ノ第一回總攻撃ノ頓挫時ヨリ五月四日攻勢前迄

ノ軍ノ統帥

一 四月二十三日敵ノ攻勢一應頓挫セルモ我第一線ノ戦力

亦遂次低下セルヲ以テ此處ニ第二十四師團全カヲ第六

十二師團ノ右翼ニ並列セントスル案軍參謀長ヨリ發議

セラレタリ。作戰主任參謀ハ依然三突基本配置ノ態勢

ヲ保持シ戰闘ヲ繼續セントラ至張セシモ軍司令官ハ

連參謀長案ニ同意シ第二十四師團ヲシテ二十四日ヨ

リ機動ヲ開始セシメ二十七日概ネ其ノ主力ノ機動ヲ完

了セリ爾後敵ハ一部ノ陣地ニ對シ蚕食的攻撃ヲ繼セ

ルモ全般ノ大勢變化ナシ

二 四月二十九日爾後軍ノ作戰指導ヲ如何ニスヘキヤニ関

實施

四月二十九日
五月四日
五月十日
五月二十日
五月三十日
六月十日
六月二十日
六月三十日
七月十日
七月二十日
七月三十日
八月十日
八月二十日
八月三十日
九月十日
九月二十日
九月三十日
十月十日
十月二十日
十月三十日
十一月十日
十一月二十日
十一月三十日
十二月十日
十二月二十日
十二月三十日

シ幕僚會議開催セラル

下

其ノ狀況次ノ如シ

不戰局ノ見透シ

現態勢ヲ以テ推移セバ組織的作戰ハ五月十五日頃ヲ以テ終焉スベシ

彼我ノ損耗判斷

彼我損耗大ナルモ敵ノ消耗我ヨリ心ズシモ大ナラサルガ

如シ

ハ爾後ノ作戰指導

參謀長意見要旨

死中迄ヲ見出スハ未タ攻勢餘カ有ル間(現在第二

十四師團主力獨立第四十四旅團尚敵第二十四軍

團ニ痛撃ヲ與ヘ戰勢ヲ挽回スルヲ要ス

三

三又降英二倍

作戰主任參謀ノ意見ハ右ト全然反對ニシテ飽ク迄守

防禦思想ナリ 然ノミナラズ議論ノ言辭消極趨嬰ヲシ

テ且過激ノ傾向アリ

他ノ參謀全員ハ數日乃至十數日ノ持久時日ノ延引ハ何

等戰略的意義ヲ有セズトナシ攻勢ニ同意ス

此處ニ於テ軍參謀長ハ軍司令官ニ決裁ヲ請ヒ遂ニ五月

四日總攻撃ニ關シ裁決セラル

3 攻撃計畫ノ概要

イ第六十二師團ヲ以テ左翼支撐ヲ堅固ニ保持セシ

ム

ロ第二十四師團ヲ以テ右翼正面ヨリ攻撃シ普天間

東西ノ線ニ進出セシム

ハ獨立第四十四旅團ヲ以テ第二十四師團ノ攻撃進

展ニ伴ヒ大山方面ニ攻撃前進セシメ戦果擴張ラ

計ル

ニ独立第四十四旅団ノ成果ニ伴ヒ第六十二師団ヲ以テ牧港方面ニ攻勢ニ轉セシム

ハ攻撃開始ハ五月四日トシ黎明攻撃ニ依リ敵陣内

ニ敢然侵入シ紛戦狀況ニ導ク

之カ爲三日夜東西海岸ヨリ有力ナル海上挺進隊ヲ派

遣シ敵ノ側背ニ上陸シテ之ヲ攪乱セシム

本作戦準備ハ比較的長時間ノ余裕アリシヲ以テ各

部隊ノ準備ハ順調ニ實施セラレタリ特ニ左翼支撐タル

第六十二師団方面ハ攻撃準備間或ハ敵ノ攻撃ニ依リ大

ナル圧迫ヲ受ケ所屬ヲ未スコトアルヘキヲ懸念シテ

對策策ニ關シ準備スルハアリシモ幸ニ斯ル狀況迄

注セザリ

方ノ如ク表面的ニハ順調ナリシモ軍參謀部内ニ

ニ於テハ積粒果消粒果相剋シツツアリ

即チ作戰主任參謀ヲ攻勢兵団タル第二十四師団

ニ對シ第一線攻勢兵力ニ大隊ト指示指導シ獨立

第四十四旅団ノ配置ヲ第六十二師団後方ニ配置

シ攻勢及敵ノ除ノ收拾態勢ヲ計畫的ニ實施シテ

リタルニ對シ他ノ參謀ハ輾一擲ノ攻勢ニ際シ

戦力ヲ攻勢ニ使用スルコトナリ失敗後ノ処置ニ

過存セシトスルハ不可ナリトシ軍參謀長ニ具申

セル等之ナリ

八軍ノ航空戦力ニ期待スル思想ノ変遷

軍ノ航空戦力ニ対スル協力期待度ニ関シテハ依戦開始前ヨリ輕重意見已々ナリシモ彌々作戰開始セラレルヤ航空ニ期待スル觀念益々増大セリ其ノ期待ニ関スル思想ノ變遷左ノ如シ

I 敵船団ヲ洋上ニ撃滅センコトハ最モ希望スル所ナリシモ過去ノ戦果ノ成否ノ大ナラサルヲ知ルヤ左ノ如ク陸海航空諸部隊ニ要望ス

上陸前ニ成可ク多数ノ船団ヲ攻撃スルト共ニ上陸ヲ支援スル戦艦巡洋艦群ヲ攻撃ス

右ハ海域ヲ限定スルコトナク航空部隊ノ最モ攻撃容易ニシテ戦果ノ大ナルヲ望ム

又我カ戦勢有利ナラサルカ又ハ我ヨリ攻勢ヲ企圖スル

状況ニ於テハ東西海面ニ遊弋スル戦艦巡洋艦群ヲ
攻撃スル如ク要望ス

右ハ支援艦艇群ヲ極大ニ有カナル道協軍砲兵集団ト
見做シ之ヲ撃滅スルコトニ依リ敵戦力ヲ破潰ス
ルヲ得且實質的ニ出血ノ効果ヲ担ハントスル思想ナ
リ

3. 五月初頭ノ攻勢時期ニ於テハ軍ノ航空部隊ノ我攻撃
直接協力ヲ欲シタルモ航空部隊ノ攻撃能力ニ鑑ミ前

項②ニ附加スルニ海岸附近軍需集積所ヲ爆砕シ地上
戦力ノ直接根源ヲ断絶スルヲ要望セリ

右諸要望ハ陸海軍ノ航空諸部隊ニ於テモ克ク了解シ之
ニ即應スル如ク其ノ作戰ヲ指導セシモ所ヲ望メ戦力之
ニ必スシモ追隨セズ殊ニ海軍側ニ於テハ対機動部隊作

戦ヲ重視センコト多キヲ以テ戦力消耗甚クシテ軍ニ対
スル協力ノ実効深帯ニ必シモ所期ニ達セザリキ

九攻勢開始トシテ同ノ経緯

一攻勢發揮ノ状況

イ五月三日夜半海上挺進隊(約1000名)ハ東西

海岸ヨリ割舟及ソノ線徒渉ニ依リ敵側背ニ挺進ヲ

開始ス

ロ四五ヨリ約三十分ノ攻撃準備時射撃ヲ実施シテ

ル後四五三〇攻撃兵団ノ一部ハ翁長東北方高地ニ突

入シ〇九三〇頃ニ至ルヤ概木上原棚原高地ヲ占領セ

ル軍砲兵隊観測所ヨリノ報告ニ依レハ敵ハ動搖

ノ兆アリテ自動貨車ニ依リ後退スルヲ望見スト

一五〇〇第一線兵団ハ小那覇北側一〇一、三高地

南側一五六、八高地南側一五四高地附近ニ進出
セリ、然レ共第二十四師團ノ一部ハ午後ニ至ルモ依
然小橋川津花坂異屋附近ニ在ル旨ノ報告ニ接ス

八四日夜独立第四十四旅團ハ主力ヲ翁長幸地ノ線ニ一
部ヲ棚原一四三高地ニ推進シ、
二四日午後ニ至ルヤ第一線ト後方トノ間ハ砲爆撃ニ依
リ遮断セラレ第一線大隊ノ状況明カナラス

軍司令部一部ニ於テハ敏感ニ暗黒ノ氣分アリ然シト
モ軍ハ依然決心ニ変化ナリ依然攻撃ヲ續行スル如ク
指導ス

ホ五日朝迄ニ棚原北側一五四、九高地ニ進出セリ
2 攻撃中止ノ状況
五日朝第二十四師團ノ報告ニ依リハ其ト歩兵力ハ

他師團ノ報告ニ依リハ其ト歩兵力ハ

師團ニ於テハ一部攻撃成功ノ外二分一乃至二分一程
度ノ損害ヲ被ル此ニ於テ軍ハ依然其儘或ハ規模ヲ縮
小シテ攻勢ヲ續行スヘキヤ損害ノ状況ニ鑑ミ攻撃ヲ
中止スヘキヤニ関シ仔細ナル検討ヲ加ヘタル結果一

ハ口口攻撃中止ヲ命ジ旧陣地ニ於テ最後ノ出血作戦
ヲ敵ニ強要センコトニ決ス

註
攻撃中止ノ決心ハ一八〇〇ナルニ拘ラス第一線駐
隊ニ派遣セラレアリシ軍參謀ノ歸來報告ニ依リハ
攻撃中止ハ一六〇〇頃傳達セラレタリト

3 攻撃直後ノ状況
ナリ中止シタリ
軍砲兵隊モ射撃ハ午後ニ至リ同モ

1 七日朝迄ニ第二十四師團ハ概テ旧陣地ニ態勢ヲ復

歸セリ
○七日第二十四師團ノ報告ニ依レバ棚原ニ進出セル大隊ヲ突破

ハ極メテ有利ナル戦闘ヲ実施シ七日再ビ敵線ヲ突破
シテ歸還シ損害僅カ數名ナリ

上原方面ニ進出セル部隊モ右ト概ニ同様ナリト
又海上挺進部隊ハ殆ド無血上陸シ有利ナル戦闘ヲ実
施シ且始メテ使用セシ戦車部隊亦前田高地ニ於テ四
日有利ナル戦闘ヲ續行シアリタリ

非難的ナリ
相違スルモノナリ

本報告ハ蓋シ五日ニ於ケル報告ト概ニテテテテテテテ
此ノ狀況ニシテ五日午後判明センカ必ズヤ
攻勢ハ志氣旺盛ノ下ニ繼續セラレ幾多有利ナル戦勢
ヲ現出シ得タルナルベキニ

41

攻勢ニ方リ之ヲ過早ニ中止セシムルノ止ヲ得ザル運命
ヲ辿レリ

十 首里最後ノ攻防ト幸方地区軍務轉移ノ経緯

I 首里防禦態勢ニ関スル軍ノ見解ニ就テ攻撃中上後

軍ノ飽ク迄翼ヲ張り後方部隊ヲ投入シツ、持久ス

ベキヤ戦力ヲ集約シツ、首里周邊一圓形複廓陣地のニ

態勢ヲ整備スベキヤニ就キ檢討スル者ハ敵ニ包圍態勢

ヨリスル勝利感ヲ與ヘ、^{（正副ヨリ）}航空ニ依ル

船艦攻撃ヲ困難ナラシムル^{（正副ヨリ）}前者ノ方式ニ依

リ敵ヲシテ^{（正副ヨリ）}間艦船群ヲ吸引牽

制シ天号航空作戦ヲ有利ニ續行セシメントスルニ決マ

リ

2 此処ニ於テ特設聯隊^{（格）}船舶部隊海上挺進基地部隊貨

物廠等ニ依リ臨時編成ス茲ニ海軍部隊ノ一部ヲ全面的

ニ前方ニ推進シ戦線確保ニ努カス

五月九日再々敵ノ全線攻勢開始
以東ハ主陣地ノ線以西ハ前田南方無名部落—経塚北端
—安波茶西方高地—線ヲ確保シアリ内問ハ遂ニ奪取セ
ラル

十日安謝附近ニ對シ敵ハ舟艇ニ依リ上陸ス十二日
敵ハ那覇北方安謝附近ニ第六海兵師團ヲ投入シ我カ左
翼ヲ圧迫シツ、首里ニ近迫シツ、アリ十三日終日天久
西方台—高橋町—崇元寺町—安里各北側台—眞嘉比西
北無名高地附近ノ線ヲ保持シ敵ノ滲透攻撃ヲ阻止ス
ハ、軍八敵ノ攻撃ヲ阻止シテ首里東西ノ線ヲ確保ニ努
カシタルモ十四日~~...~~及経塚附近平良所
—大名—未吉、線ニ後退整理セリ十五日敵ノ強圧ハ依
然天久ヨリ那覇方面ニ指向セラレ独立第四十四旅團ノ

指官亦少カラズ十七日早朝西原村一五〇高地ヲ奪取セ
ラル十九日敵ノ攻撃ハ一撤ニ依調ナルモ戦線後方ハ依
然活況ヲ呈シツ、アリ
五月二十日ニ於ケル軍ノ戦力別表、如ク軍八戦力ナリ
態勢ヲ整頓シ一層ノ劣血強要ニ努力スルノ方策ヲ考究
シ二十日夕茲ニ島尻地區ニ戦線ヲ整理縮少スルニ決マ

別表

(一)

兵團	歩兵	其他	備考
240	二六〇〇	三七六六	二〇八五月十日頃戦力激減シ兵数不詳
448	一六〇〇	二三〇〇	ナリ
軍直		四〇〇〇	ニ其他トハ砲工機重輸衛生因係部隊
砲軍		一〇〇〇〇	ナリ
計	四二〇〇	二〇一〇〇	ニ歩兵中ニ指揮下ニ入りタル他兵種
			部隊ヲ含ム

別ノ調査ニ依ル兵員概数左ノ如シ

作戦開始前、給養兵額	七二〇〇〇
五月二十日迄ノ實情、戦死	二五〇〇〇
戦傷 行方不明 掌握不能	一三〇〇〇
掌握兵力	三四〇〇〇

別表

兵器彈藥數	九五門 九〇門	作戦開始時、 六〇%
野砲以上	九五門	
小口砲及迫撃砲	一〇〇門	
Mg		30%
彈藥	SA級一基数 A級六基数	作戦開始時ハ 一會戰分

後方陣地ヘノ轉移ノ状態

二十一日東海岸方面ヨリスル敵ノ滲透急ニシテ今
ヤ林之ヲ阻止シ得ヘキ戰鬪餘力無シ二十三日夜義烈
空挺隊北中飛行場ニ着陸攻撃セルモ地上作戦ニ
及ホスニ至ラス又天候不良ハ航空特攻攻撃ヲ以テ其ノ
戦果ヲ擴張セシムルニ至ラス
口 二十三日頃ヨリ後方部隊ヲ逐次島尻地区ニ移動セ
シムニ二十五日第六十二師團ノ主力約二〇〇〇ヲ以テ首
里地区ヨリ津嘉山東南方地区ニ轉用集結シ悪天候ヲ利
用シテ逆襲ヲ實施シ軍主力ノ轉進ヲ容易ナラシム二十
九日軍主力ハ逐次南下ヲ開始シ有力ナル一部及海軍部
隊(小隊)ハ現陣地ヨリ新陣地ニ至ル間既設陣地ヲ利
用シ撤去サル地域抵抗ヲ實施ス三十日軍司令部ハ摩文

夕刻迄ニ興即チ
雨ニ森林地ニ侵入シ

47
日

仁南側八九高地ニ移轉ヲ完了ス三十一日連日ノ雨ヲ冒シ敵空地ノ攻撃ヲ行動活発ナルモ我砲兵及第一線ノ撤退ハ概テ順調ニ進捗ス殘置部隊ハ箱橋中程ニ善屋武宮平東側宮城一三八高地赤田町南側益敷南側那霸南端ノ線ニ於テ敵ト接觸ス六月一日軍ハ概テ能勢轉換ヲ終了セルモ敵ハ我力企圖ヲ察知セシモノ、如ク其砲撃ハ逐次花尾武半島方面ニ移行ス三日敵ハ追撃活発ナラス彼我接觸ノ線ハ概テ箱橋北側友寄良堂根差部ノ線ニ在リ各兵團重砲兵隊主力ハ概テ新陣地内ニ配備ヲ完了ス

十一 島尾地区區：終焉戰鬪

又花尾武半島方面ニ移轉ニ際シ、約一〇〇名ヲ残置シ、約一〇〇名ヲ中丁

六月四日五〇〇海軍舟楫地区タル小祿附近ニ敵上陸シ其強圧ヲ加ヘ、了リ五日敵ハ逐次島尾主陣地ニ近接ス具志頭ニハ約二〇〇ノ敵進出セルモノ一八〇

ハ之ヲ擊退セリ、日夜殲滅部隊タル歩兵第二十二聯隊主力ハ陣地内ニ撤收ヲ完了セリ十一日主陣地タル安里北側高地ノ爭奪熾烈ニシテ又五日以來小祿地区ニ於テ奮戰中ナリシ海軍部隊トノ通信杜絶スルニ至ル十二日主陣地右翼ニ對スル敵ノ攻撃熾烈ニシテ系滿西方海面ヨリスル敵ノ策應行動顯著ナリ即チ水陸兩用戰車三〇莫米里西北海岸ニ上陸ス十六日右翼獨立第四十四旅團方面ニ第六十二師團ノ残余兵力ヲ投入シ敵ノ突破ヲ封止スルニ努メタルモ敵ハ一五七六高地附近ニ滲透ス中英及左翼方面ハ依然主陣地ノ線ニテ死闘ヲ繼續ス

乙 前頃ノ如ク軍ハ空刃ヲ竭シテ最後ノ奮戰ニ努メシモ十七日ニ至リ軍ノ統一崩壊困難トナリ各部隊ハ現位置ヲ固守シテ局部的戦ヲ續行スルノ止ムヲ得サル

ニ至リ軍司令官ハ十七日決別ノ電報ヲ發ス二十日戰鬥
ハ各部隊ノ所在地ニ於テ繼續シ第二十四師團ハ眞栗里
東方高地眞栗北側高地附近ニ尚健ニ守アルニ如シ
二十二日ニ到ルヤ葦ト各部隊及大本營間通信杜絶ス斯
ノ如クシテ作戰開始以來三月敵ニ多大ノ劣血ヲ強要シ
タル第三十二軍ハ其ノ健斗力ニ依リ本土作戰準備ニ
多大ナル貢獻ヲ為シ神繩本島ニ終焉セリ

伊江島及國頭方面ノ戰鬥

一 伊江島及國頭方面ハ配備任務伊江島ハ歩兵一大
隊國頭支隊指揮下及飛行場一大隊ヲ以テ伊江城山ヲ中核
トシ同島ノ警備ニ任ス國頭支隊ハ八重岳谷與岳名護岳
ヲ中核トシテ陸地ヲ確保シ執拗ナル撃戰ニ依リ軍ノ作
戰ヲ容易カラシム

2 伊江島四月十五日一〇〇伊江島南側水納島ニ敵
一部上陸十六日伊江島東南岸ニ水陸兩用戰車ヲ伴フ上
陸用舟艇約一〇〇ヲ以テ上陸ヲ開始又十七日一二〇〇
迄ニ伊江島ニ上陸セル兵力戰車八〇兵員一〇〇〇ニシ
テ國頭支隊トノ連絡杜絶シ尔後全面的ニ遊撃戰ニ轉
セルモノノ如シ十八日伊江島トノ連絡確保シアルモ
抵感十九日ニ到リ通信杜絶ス

- 五(イ) 國頭支隊ハ十八日川田ヨリ更ニ國頭部ニ轉進同
支隊長ハ安救ニ向ヘルモ尔後ノ消息不明ナリ
- 四 十八日第三遊撃隊約五〇〇名(谷與岳名護岳志岳)第四
遊撃隊約四〇〇他ニ航空地区部隊其他及海軍部隊四〇
〇(恩納岳)ハ活潑ナル遊撃戰ヲ實施ス
- 三(イ) 第十九航空地区隊長ハ同地区隊第六十二師團被

五歩兵第十大隊第一中隊ヲ併セ指揮シ石川岳ニ隣道
シ部下ノ掌櫃ニ努ム十八日頃ニ於テ國頭地区ニ於ケル
兵力ハ約一七〇名推定ニシテ全面的ニ遊撃戰ヲ實施シ
リ、アリ

(五) 尔後軍ハ屢々連絡者ヲ派遣シテ同部隊ト、連絡ニ
努メタル支隊ノ全體ヲ把握スルニ至ラズ

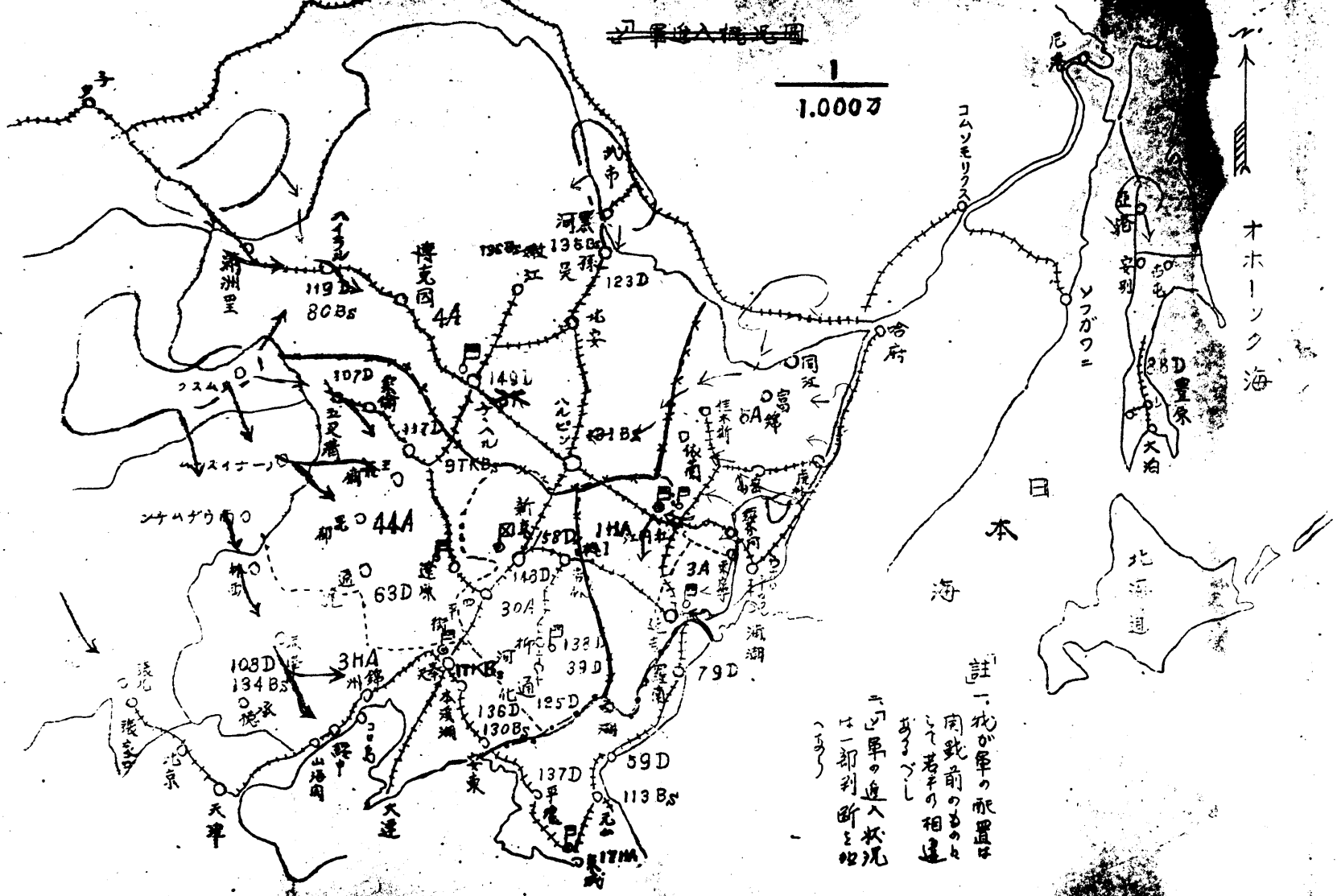
(ホ) 六月上旬國頭方面遊撃隊ハ食糧自給ノ關係ニ依リ
一小隊乃至一分隊ノ兵力ヲ分散配置スルノ已ムヤキニ
至リ且兵器ノ不足人首逐次ノ損傷等ニ依リ積極的戰斗
行動ニ出ツルモノ逐次減少セルモノノ如シ

國頭五



軍進入概略図

1
1.0007



オホーシク海

日本海

北海道

註一、此の軍の配置は
南進前のもので
して若干の相違
ありし
二、この軍の進入状況
は一部判断とせ
らる

